

おとこの娘の

アロキ



成人向け



は
ろ
の
ま
ご
の

メロロ
メロ
メロ

惜しかったな
シエール…いや
ピロテースよ

ふ…

混沌輪によって
再び眠りについていたのは
アシユラムの方で
あったぞ

それにしても
自ら出向いて
来るとは

探す手間が
省けたと言うものよ

三百年の努力が
無駄になったな！

ザク

ガク

ああ……
そんな……
アシユラム様……

ガク

さて
如何したものか……

くっ……！



どうした
早く来ないか

おぬしは
獣人化
出来ぬからな

ならばせめて
獣の様に
扱ってやる

……ッ

…耐えるのだ
失意し大人しく
従っている風を
装えば

のぞ…

おぬしはこれから
漂流王と呼ばれた男
ではなく

この神獣王バルバスに
仕え奉仕するのだ

それに……

戦いの後は
いつも滾るのでな

ビーン

ギーン

いずれ
アシユラム様を
呼び戻す機会が…

少なくとも
身体はアシユラム様の
もの……

ほれ…この肉体も
おぬしを求めておるぞ

ドーン

ドーン



アシユラム様の
におい……

獣の様に
手を使わずに
奉仕するのだ

これは三百年振りの
アシユラム様の

そうだ……

おっ……



おお……
随分素直ではないか

あの男に
仕込まれたか？
クワクワ……

何とでも
言うがいい

おっ

おっ



そうやって
思い上がって
いければ

アシユラム様が……

おっ

おっ

おっ



必ず私が……

ぐゅゅゅ

ぐゅゅゅ



アシユラム様……
待っていて下さい

う……いいぞ……
その調子だ

ぐゅゅゅ

ぐゅゅゅ



精々我に
飽きられぬようにな

ぐゅゅゅ

大人しく
従っている
限りは命までは
取らぬが……

ぐゅゅゅ

心配するな
おぬしはこの男への
切り札にもなる

ぐゅゅゅ



アシユラム様に
されていると思えば
この程度の事……!

ぐゅゅゅ
ぐゅゅゅ
ぐゅゅゅ

ぐゅゅゅ

よし：
こちらの準備は
出来たぞ

ほう……
この期に及んで
未だ恥じらいが
残るか？

アシユラム様……
どうか私に耐え抜く力を

服を脱いで
我に身体を見せよ

その割には随分
破廉恥な下布
ではないか

110

チッ……

くくく…
何と言う姿

主の為に
ここまでするとは
こやつも鼻が
高いであろうな

耐えろ…
何と言われようと
アシユラム様の為…!

きゃっ

ピル

ピル

こちらも充分
熟した様だな

ひうっ!

律儀に操を
守っておったか

処女のように狭く
喰い締めて
押し返して来おる

あっ

くっ

ピル

ピル

アキ

にちっ

にちっ

にちっ

ピル

じゃあっ

えっ!?

うめ!! ビンッ

ビクビク
あはは
あはは

身体が
勝手に
イッて...!

おうおう
あっさり
気を遣りおった



なんで...
こんな...

全く
廻り甲斐が
無いではないか

まあいい
私も久しいからな

そろそろ
楽しませて
貰うとしよう



アシユラム様の
手だから...?



なっ…
そのままなんて
無…理…!!

無理いーいー!

おんが



普通に交わっても
面白くなかろう!

しかし
想像以上に
良い具合だぞ

ああこんな…
こんな格好を
アシユラム様以外に…

申し訳
ありません…

そうかそうか

三百年振りの
愛しい男の肉棒に
おぬしの身体も
喜んでおるのか

おんが…

おんが

おんが

おんが

おんが

おんが

ド4ユッ ド4ユッ ド4ユッ

激し...

これは...!!
締め付けながら
吸い出そうと
して来おる!

ド4ユッ

懐かしの...

ド4ユッ

ド4ユッ

ド4ユッ

おおっ!
出ッ.....!

全くこやつも
どれだけ溜めて
おったのだ...

ド4ユッ

ド4ユッ

ド4ユッ

ド4ユッ

ガク

ガク

あ~~~~

あ~~~~

あ~~~~

まあ良い
それだけ楽しめる
と言うものよ

ド4ユッ

ド4ユッ



んんふううう

出るわ
出るわ

んんん

んんん

好き者め
まだ腰が跳ねて
いるではないか

んんん
んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

ああ……
流れ込んで来る……

んんん

身体はアシシラム様
なのに……

全く違う何か……

バルバスの気に
身体が犯されて行く……

んんん

んんん

んんん

だが心配するな
全ておぬしの
中に吐き出してやろう

んんん

んんん

んんん

んんん

さて次の
ターンだ



ピロテースよ
尻穴も中々の
名器であるぞ

きつ…
貴様が…!

その名を
呼ぶなあっ!

ズッ

ズッ

ズッ



ああ…
アシユラム様

そして例え
ファラリスや
カーデイスでもいい

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

この神獣王バルバスに
負けぬ力を私に
与えたまえ…!

ズッ

ズッ

ズッ



嫌あああ！

流石だな
この身体との相性が
抜群で幾らでも
出せそうだなぞ

まただ…！
またバルバスの気が
流れ込んで来る…

アシラム様の
身体に抱かれています
のに……！

そろ
尻穴にもたっぷり…



奴の気が……

流れ込んで……？



ジュンジュン…

飲ませてやるぞ！





あれだけ大口
叩いておいて...

ましてや
アシラム様の
身体を使って
おきながら

この程度とは
クスクス

一休み?
冗談でしょうか?

な...に...?

ギミ...



.....ッ!
貴ッ様ああ!



剣齒虎の一物を
味わうがいい!

壊さぬようにと
手加減しておけば
付け上がりおって!



真王?
神獣王?

聞いて呆れるわ

ぎっし

ぎっし ぎっし

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ



貴様の子宮ごと叩き潰してくれるわ!

その減らず口...!

ドスッ ドスッ

ドスッ ドスッ

ガクッ

あぁあ

ガクッ

ぎゅっ

ぎゅっ

ぎゅっ

ぎゅっ



凄いわやれば出来るじゃない

まだ言うか! このダークエルフ風情が!

執

何処まで持つか試してやる!

ブルンブルン

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ



どうだ！
少しは
堪えたであろう！

そうね
『少しは』
堪えたかしら？

ぐっ！

あっ

あ

あ

でも流石神獣王
量は凄いじゃない

もしかして
散々『力を与える』と
言っていたのは
精力の事かしら？

いい度胸だ！
後悔させてやる！

まだまだ
終わらんぞ！

怯える
が...

ゴクッ
ゴクッ

びん
べん

どうしました
神獣王バルバス
随分と受け身に
なってる様で…

まさか
お疲れですか？

ま…まて
おかしいぞ…

やめろ…

出る…

あは…
あは…

出す度に…
私の意識が…

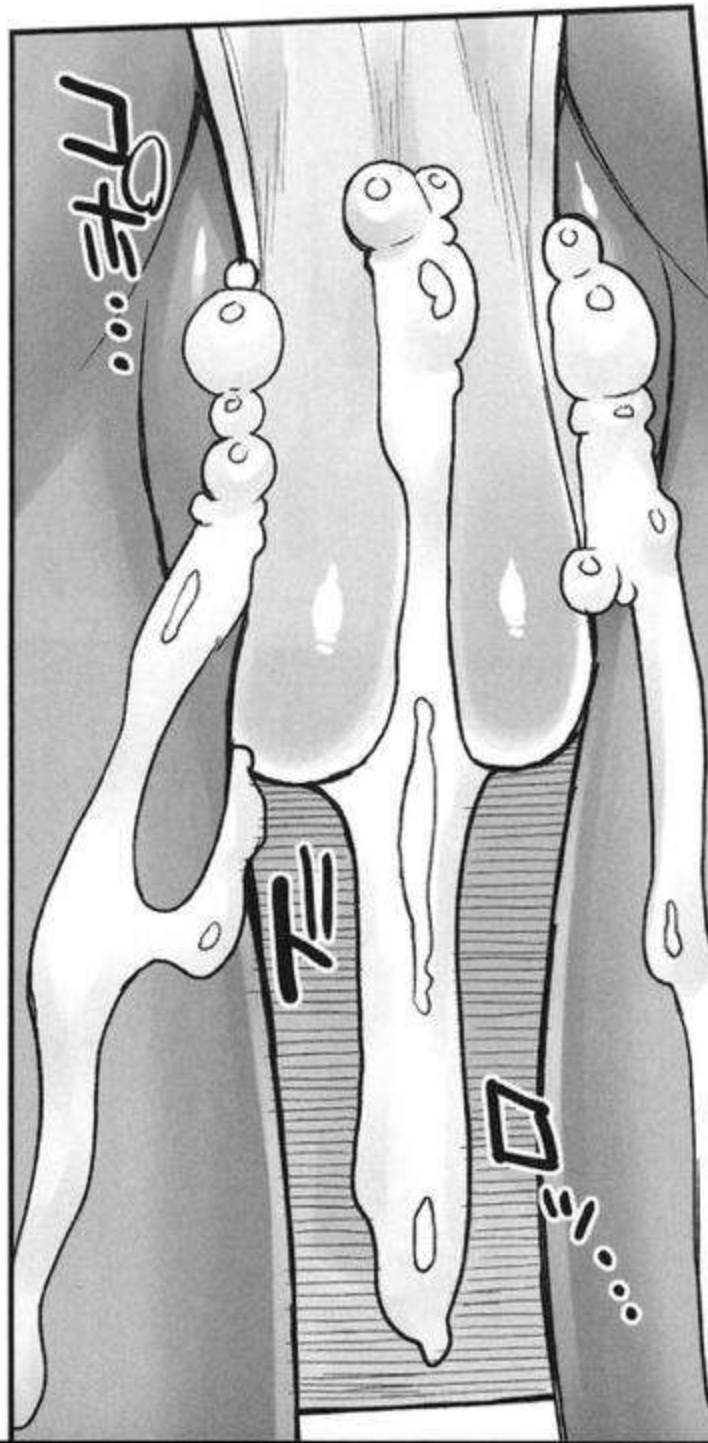
トクッ

トクッ

おかしくなんて
ないわ

三百年間
お預けを喰らっていた
女の情念を甘く見たわね

アシユラム様を
返してもらおうわ



は
ご
ま
の
の

ロボ
ポ
ン

後書

お久しぶりですBANG-YOUです。

流弾屋としての本は本当に久しぶりですね。
しかもピロテース本で更に『はじまりの冒険者たち (1995年)』の方って言う。

唐突にノリで描こうと思ったのは良いのですが
兎に角資料が少なくて参りましたね (笑
ひさしに観直しましたが
アニメの中でのシェール (ピロテース) は実はあまり出番が多くなく
色指定も安定してない関係で別キャラと思う事もしばしば…
当時の書籍類のイラスト等も『はじまりの〜』版ピロテースは
結構イメージが固まっておらず結局ほぼイメージで描いております。

が、やはりピロテースはロードス島の方のデザインイメージが強過ぎるので
誰これ状態の方も少なくないと思いますが、そこはご了承を…

二次創作作品は最近あまり描いておりませんでした
やはり描くと楽しい。
そろそろご無沙汰になってるウラヌス本も作りたいですね。

あと涼しくなって来たのでバイクで旅に出たい。

奥付

『はじまりのピロポン』

発行：2023/10/01

発行サークル：流弾屋

著者：BANG-YOU

<https://www.pixiv.net/users/16942>

印刷所：ねこのしっぽ様

は
ご
ま
の
の
ム
ロ
ク
キ
ム
ン

2023/10/01

流弾屋